

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

《概要》

本校では、いずれの教科も全国の平均正答率を下回る結果となりました。教科ごとに見ると、国語では、全ての領域で全国の平均正答率よりも低い傾向にありました。算数では、「数と計算」の領域で全国の平均正答率より高くそれ以外の領域で低い傾向にありました。児童質問紙からは、「規範意識」の項目についてはやや高い傾向が見られ、「生活習慣・学習習慣」の項目については低い傾向が見られました。

《強み・弱み》

本校では、「ふりかえり」を大切にし、ペアやグループで話し合う等の「学び合い」の取組を推進しているところです。これまでの日常的な取組を通して、わからないことを尋ね合ったり、互いの考えを出し合ったりする姿が見られるようになってきています。一方で、無解答率が高い傾向もみられ、問題を最後まで粘り強く読み進めたり、指定された条件に合わせて考えたりする力には、弱さが見られます。また、情報や他者の意見を分析・活用して自分の考えをまとめる力についても課題がみられます。

【国語・算数】

全国平均と比較して良い傾向がある問題

	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	1三(1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書きます(きかん)	学年別漢字配当表に示されている漢字の文の中で正しく使うことができるかどうかをみる
	3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる
算数	2(4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

全国平均と比較して課題が見られる問題

	問題番号	問題の概要	問題の趣旨
国語	1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる
	3二	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる
算数	3(3)	$(151+49) \times 3$ と $151 \times 3 + 49 \times 3$ を計算したり、分配法則を利用したりして答えを求める	加法や乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかをみる
	4(3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

【質問紙調査】

全国平均と比較して良い傾向がある主な項目

- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「友達関係に満足していますか」等、友人との関わりについての項目
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」等、規範意識に関する項目
- 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」等、自分に関する項目
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」等、相手に関する項目
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」等、学習への取り組み方に関する項目

全国平均と比較して課題が見られる主な項目

- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」等、学習における考え方に関する項目
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」等、家庭学習に関する項目
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」等、学び合い活動に関する項目

【指導の充実に向けて】

- これまでに引き続き、授業の初めに見通しを持って学習に臨めるような「めあて」を提示、授業の終わりには、自分がわかったりできるようになったりしたことや、友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことを振り返る活動（「ふり返し」）を推進します。特に「ふり返し」の活動を充実させることにより、学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる力や、自ら課題を見出し解決する力の素地育成を目指します。
- ペアやグループで話し合う場面を取り入れ、聴き合う関係づくりの強化を進めます。また、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫する活動を設定する等、児童の深い学びにつながる授業づくりにも日々取り組んでいきます。
- 教科指導の際には、正しい答えを出すことだけでなく、問題を解く過程も重視した指導に努めます。
- ベーシックタイムにおいて、ガッテンプリント（県教育委員会作成の学力補充プリント）やeライブラリ（ICT）を活用し、基礎の積み上げや定着を図ります。特に、本調査で弱さの見られた領域や課題に対する補充等に力を入れていきます。
- 保護者、地域との連携を図りながら規則正しい生活習慣や、学習の計画等に関する課題について、学校だよりや学習の手引き等を活用しながらさらなる啓発を進めていきます。